

2008年3月期 第1四半期決算 FAQ

Q1: 第1四半期（4－6月期）の業績は期初想定と比べてどうであったのか？

A1: 第1四半期の半導体売上高については、前期（1－3月期）比約3%増の1,650億円となりました。ゲーム機向けの半導体やテレビやパソコン向けの大型ドライバICの売上が好調であったことなどにより、期初の想定を若干上回る結果となりました。営業損益については、前期比156億円改善し22億円の損失でありましたが、半導体売上高の増加や費用の削減等により、売上高同様、期初の想定を若干上回る結果となりました。また、税引前損益につきましては、営業損益の改善に加え、フォトマスク事業を譲渡したことによる譲渡益を計上したことなどにより、9四半期ぶりに黒字を確保いたしました。

Q2: 第2四半期（7－9月期）の業績見通しはどうか？

A2: 第2四半期の半導体売上高につきましては、第1四半期比で一桁中盤の増加を見込んでおります。通信機器分野については第1四半期に引き続き厳しい状況となると見込んでいるものの、それ以外の分野につきましては、コンピュータおよび周辺機器分野、民生用電子機器分野を中心に、堅調な伸びになると見込んでおります。営業損益につきましては、売上高の伸びを背景に、営業利益での黒字回復を目指して参ります。

Q3: 今年度の営業黒字化の確度は高まったのか？

A3: 足元は順調に回復をしておりますが、年度後半の半導体市況の不透明感等を考慮し、現時点では中間期、通期とも業績予想を据え置いております。第1四半期の業績が期初想定を若干上回ったこともあり、前述の通り、実行ベースにおいては第2四半期の営業黒字化を目指して参りますが、今年度営業黒字化という目標達成の確度という点においては、まだ楽観できる状況とは考えておらず、先般発表した新経営方針に基づく施策を着実に実行して参ります。

Q4: 今年度の設備投資額は期初計画で700億円であったが、変更はないか？また、第1四半期の稼働率の状況、および今後の見込みはどのくらいか？

Q4: 今年度の設備投資額については、約700億円で期初計画から変更ありません。稼働率につきましては、第1四半期は平均で約85%でした。前期の生産調整の影響で5月初旬までは平均を下回る水準でしたが、期の後半からは改善してきております。この流れをうけ、第2四半期につきましては、平均で90%を超える水準となる見込みです。

以上